

2 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

■学修領域（教育分野）

- ①環境・エネルギー
- ②物質化学
- ③バイオ
- ④食品

■カリキュラム編成の基本方針

地球上の様々な環境問題が深刻化する今日において、本学科では、環境・エネルギー、物質化学、バイオ、食品の4つの分野に関して適切な化学的あるいは生物学的なアプローチを用いて問題解決する能力をもつ、自立した技術者を育成するための教育を展開する。そのため、専門科目を理解するための基礎科目を確実に身につけた上で、講義、演習、実験を通して環境技術の幅広い基礎知識と理論を体系的に学び、実験や卒業研究を通して分析力・課題解決力を養う。また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の養成課程を設け、資格取得を支援する。

学修方法については、「科学実験入門」、「化学実験」、「生物学実験」、「機器分析化学実験」、「環境物質工学実験」、「環境生命工学実験」等の科目はアクティブ・ラーニングを実践し、学生の主体的に学ぶ力を向上させる。また、3年次に生命環境化学分野の最先端研究テーマを紹介、討論する少人数グループのゼミナールを導入し、4年次の卒論研究と繋げ、学修してきた基礎・専門知識を総合的に応用する力、さらに問題・課題の分析・解決力を向上させる。

■年次別科目の配当方針

1～2年次では、専門科目を理解する上で欠くことのできない基礎知識を学び、実験を行うために必須の基礎技術を習得する。

2～3年次では、主要な専門科目を学び、環境、物質、生命、食品の各分野に不可欠な基礎知識と、実験・実習を通じた応用力を養う。

4年次の卒業研究では、先端の研究方法論を学び、高度な実験技術・測定技術による問題解決能力を養う。また、研究成果報告の実践的演習によるプレゼンテーション能力を身に付ける。

■学修成果の評価の在り方

各授業科目の学修内容、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバスにより学生に周知し、それに則した厳格な成績評価を行う。各年次への進級については、学生便覧等に明記された進級条件を満たすことが必要である。2年次終了時には、コア科目「科学実験入門」と「化学実験」を含む学修到達度を評価して、進級判定を行う。3年次終了時には、すべてのコア科目、並びに専門基礎科目と専門教育科目を含む学修到達度を評価して、進級判定を行う。卒業するには、卒業要件として必要とされる単位数以上を修得するだけでなく、さらにディプロマ・ポリシーの「修得する知識・能力」の達成度合いを4年次終了時の卒業研究発表会並びに卒業論文の作成によって、総合的に評価する。

■コース説明

生命環境化学基盤コースと生命環境化学アドバンスコースを設ける。アドバンスコースは、基盤コースのカリキュラムに加え、「先端生命環境化学演習」、「先端生命環境化学実験Ⅰ・Ⅱ」、「技術英語」および「生産技術倫理」といった授業科目をコース必修科目として配することによって、最先端の知識と経験を身につけることができるカリキュラムとなっている。